

高等学校情報科での学びに関する調査結果と考察： 麗澤大学 2025 年度新入生を対象とした調査

中園 長新^{1,a)}

概要：情報処理学会コンピュータと教育研究会が作成した「高等学校情報科での学びに関する調査アンケート実施項目」に基づき、麗澤大学 2025 年度新入生を対象としたアンケート調査を行った。大学入学共通テストで「情報」を受験した者は少なく、情報入試の影響は見出せなかった。このことは、年内入試で定員の多くを確保する私立大学の入試戦略が影響している可能性がある。情報科の履修科目・時期を問う質問でわからない・覚えていないという回答が一定数あり、情報科の存在が他教科と比較して薄かった可能性がある。学習内容の理解についてはおおむね半数程度の回答者が理解している傾向が見られたが、分野による差も明らかになった。一方で、情報科の履修に対する印象としてはおおむね好意的であり、今後はこのポテンシャルを元に、情報科の深い学びにいかに関与していくかを検討する必要がある。

Results and Discussion of a Survey on Learning in High School Informatics: A Survey of the Freshmen of Reitaku University Academic Year 2025

NAGAYOSHI NAKAZONO^{1,a)}

1. はじめに

1.1 研究の動機と背景

本研究は、高等学校学習指導要領改訂や大学入学共通テストへの「情報」追加といった制度的な変化が、高等学校での学びの実態にどのような影響を与えているか、あるいは与えていないかを明らかにすることを目指して実施したものである。

2018（平成 30）年 3 月に改訂された高等学校の現行学習指導要領 [1] が 2022（令和 4）から学年進行実施され、この教育課程で学んだ最初の世代が、2025（令和 7）年 3 月に高校を卒業した。すなわち、2025（令和 7）年 4 月に大学に入学した「現役生」は、この教育課程で学んで大学に進学した最初の世代である。

高等学校における情報教育、とりわけその中核を担う情

報科教育は、この学習指導要領改訂を筆頭に、制度的な面において近年大きく変化している。現行学習指導要領においては、共通教科情報科の科目が必修履修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」に再編され、原則としてすべての高校生が同じ「情報Ⅰ」を履修することとなった^{*1}。また、大学入試センターが実施する大学入学共通テストでは、令和 7 年度試験（2025 年 1 月実施）から教科として「情報」を追加し、情報科は「受験教科」としての側面を併せ持つことになった [2]。

学校教育における情報教育は、高等学校情報科だけでなく校種・教科等横断的に実施されるものであるが、その中核を担う教科として高等学校情報科は重要な存在である。すなわち、現行学習指導要領で学習した世代は、これまでの教育課程とは異なる情報教育を履修してきたはずであ

¹ 麗澤大学
Reitaku University,
2-1-1, Hikarigaoka, Kashiwa, Chiba 277-8686, Japan
^{a)} nnakazon@reitaku-u.ac.jp

^{*1} スーパーサイエンスハイスクール（SSH）等の指定を受けた学校や、専門学科等の中には、別科目を履修することで情報Ⅰの代替とする場合があり、その場合は情報Ⅰを履修していないことになるものの、代替科目によって情報Ⅰに相当する内容は学習しているはずである。

る。そうであれば、現行学習指導要領を学んで大学に入学した学生は、これまでの学生とは異なるレベルの情報活用能力を身につけていることが期待される。

しかしながら、ここまで述べてきたことはすべて制度上の事象に過ぎず、現実の学校や生徒・学生の実態を反映したものではないことに注意を要する。教育課程は確かに変化した、それによって高校生（あるいは高校卒業後の大学新入生）がどのように変化したか、あるいはしなかったかについては、実態を調査することで明らかにしなければならない。実態調査の方法としては、高等学校卒業時に卒業生に調査したり、大学に入学した新入生に調査したりする方法が考えられるが、本研究では後者の方法を採用する。

ところで、大学に新入生を対象とした調査において留意すべき点として、大学入試の多様化 [3] がある。国公立大学は伝統的に、受験年度の 1 月以降に実施される大学入学共通テストと 2・3 月に実施する各大学の個別試験を併用した形式を採用する一方で、近年、私立大学の多くは受験年度の 12 月以前（いわゆる「年内」）に実施する「年内入試」の比重を高めている。また、国公立大学においても、推薦入試や総合型選抜（旧・AO 入試）等の活用 [4] により、「年内」に合格する受験生も少なくない。その結果、文部科学省が発表した「令和 6 年度国公立大学入学者選抜実施状況」[5] によると、大学全体の入学者数 613,453 人に対して一般選抜での入学者数が 291,590 人（約 47.5%）に留まっており、半数以上の入学者が推薦や総合型選抜といった形式の入試で入学していることがわかる。こうした入試時期の前倒しによる功罪は本稿では議論しないが、教育ジャーナリストの後藤が「もはや 2 月が大学入試本番とはいえない」[6] と表現しているように、現実として、大学入学共通テストを受験するよりも先に大学合格を得ており、大学入学共通テストを受験しない受験生も一定数いるのではないかと推察される。その一方で、大学入試センターの発表によると 2025（令和 7）年 1 月実施の大学入学共通テスト受験者は、前年度と比較して微増しており [7]、これは大学入試の多様化が「共通テスト離れ」を生んでいるわけではないという現実を示唆しているとも考えられる。

なお、前述の通り大学入学共通テストには令和 7 年度試験より「情報」が追加され、国立大学協会の方針により、国立大学受験者は原則として「情報」を受験しなければならないこととなった [8]。また、この流れを受けて、各大学における個別試験においても情報入試を追加する大学が増加している [9]。しかし、国立大学であっても「受験は必須とするが加点対象としない」ような大学があったり*2、個別試験でも選択科目の一つとして位置づけられている（情報を受験しない選択肢がある）大学が一定数存在したりす

るため、情報科をどの程度「受験教科」として意識しているかは、受験生によって温度差があることが推察される。

こうした大学入試の多様化において、大学入学共通テストに「情報」が追加されたことが、受験生にとってどのような意味を持つのか、実態に基づく検討は現時点ではまだ、管見の限りでは見当たらない。しかし、大学入学共通テストを必要とする受験生とそうではない受験生の間では、情報科の学びに対する意識に何らかの差異が生じていることも考えられる。このことを明らかにするためには、受験が終わった学習者を調査対象とする必要があり、大学新入生を対象とした調査は、このニーズに合致していると考えられる。

1.2 研究の目的と意義

本研究の最終的なゴールは、2018（平成 30）年改訂の高等学校学習指導要領に基づく教育課程を履修してきた大学新入生を対象として、高等学校情報科での学びの実態を明らかにすることである。しかし、このゴールに到達するためには全国の多数の大学等における調査を実施する必要がある。本稿筆者だけでは到達できない。そこで本稿ではこのゴールにたどり着くための研究の一つとして、筆者の本務校である麗澤大学の 2025 年度新入生を対象とした調査を実施し、その結果を整理し考察する。

本稿における研究成果は、前述した研究の最終的なゴールに到達するための成果の一つとして位置づけられる。また、本務校のような小規模私立大学における傾向を検討する上でも、重要なサンプルとなることが期待される。

2. アンケート調査

2.1 調査対象校の概要

アンケート調査は、筆者の本務校である麗澤大学の学生（2025 年度新入生）を対象に実施した。

麗澤大学は、千葉県柏市にキャンパスを持つ私立大学であり、外国語学部・国際学部・経済学部・経営学部・工学部の 5 学部からなる。学生数は小規模であり、入学生の定員は 700 名であるが、2025 年度は定員を超える 989 名*3が入学した。入学者選抜は、一般選抜に加えて、「年内入試」の推薦入試や総合型選抜等も実施しており [11]、近年は半数以上の学生が「年内入試」で合格し、入学している。

もともと外国語や経済の学部から始まったこともあり、いわゆる「文系」の色が濃い大学であったが、2024 年度に工学部を新設したことにより、小規模ながら文理融合型の総合大学となった。しかしながら教員としての印象では、いずれの学部もコンピュータ等に慣れ親しんでいる学生は少なく、情報・データサイエンス系の授業の中で基本的な

*2 このような状況に対しては、情報処理学会が「すべての受験科目に適切な配点が行なわれること」を強く求める見解 [10] を公表している。

*3 2025 年 3 月 28 日現在の数値であり、実際は入学時までに若干の変動が生じている。本稿執筆時点では正確な入学者数が公開されていないため、暫定的な数値を掲載した。

内容から丁寧に解説する必要があることも多いと感じる。

卒業後はほとんどの学生が就職等を希望しており、大学院進学者は少数である。

本学新入生が情報教育にどのような意識を持っているかについては、本稿筆者による既発表論文 [12] にまとめている。これは 2024 年度新入生に対する調査であり本稿調査とは対象が異なるが、参考として、次のような傾向が見出されている。

- 「情報」を、単なる ICT 活用に留まらず、意味理解やコミュニケーション等を含む広い概念としてとらえている
- 日頃から情報概念に触れており、情報というものについて考える機会が存在している
- 情報に関係する知識等に対して、自らすすんで知ろうとする意欲は高くない
- 高校情報科の学びに対して、パソコンスキル学習という意識が大きい

2.2 調査の概要

本研究の目的を達成するため、アンケート調査を実施した。アンケート調査の項目は、情報処理学会 コンピュータと教育研究会 (CE 研) が作成した「高等学校情報科での学びに関する調査」アンケート項目 [13] を利用した。実際の調査実施にあたっては、アンケート項目を Google フォームに落とし込み、オンラインで回答できるようにした。

このアンケートは、大学における 2025 年度入学生を対象とすることを意図して作成されている。そのため本研究では、著者の本務校である麗澤大学（以下、必要に応じて本学と表記する）において、1 年次必修科目として設置されている科目「情報リテラシー A」の履修者を対象として調査することとした。当該科目は 1 年次の第 1 クォータ（春 semester の前半）に開講しており、100 分授業 14 回を週 2 回ずつ実施する。入学生全員が履修しており、学部ごとに複数のクラスに分割しているが、学修内容は共通化している。なお、必修科目であるため毎年度一定数の再履修者がいるが、再履修者は専用のクラスを用意しており、新入生クラスでの履修はない。そのため今回の調査では、再履修クラスを除くすべてのクラスを対象とした。これは本学の 2025 年度新入生を対象にしたことと同義である。

調査期間は 2025 年 4 月 16 日～29 日で、この期間に実施した当該科目の授業内で実施した。各クラスの授業担当教員が調査の概要や注意点を読み上げ、成績に影響しないことや任意回答であること等を伝えた上で受講生に回答してもらった。なお、回答に際しては名前やメールアドレス等の個人を特定する情報は一切収集していない*4。

*4 調査対象者以外が回答することを防ぐため、Google フォームは大学アカウントでログインしたユーザのみがアクセスできる設定

本調査は、麗澤大学「人を対象とする研究」に関する倫理細則に基づいて計画し、教員倫理委員会に届け出た上で実施した。

2.3 回答者の属性

アンケート調査は任意回答としたため、回答率は所属学部によってバラツキが生じた。学部ごとの授業履修者数とアンケート回答者数を表 1 に示す。なお、「分類」はアンケート結果を整理する際に用いる学問分野である*5。全体としては 51.7% の回答率となった。学部ごとの回答率のバラツキが結果に与える影響については、本稿執筆時点では未検討であるため、今後の課題としたい。

表 1 所属学部ごとのアンケート回答率

学部	分類	履修者数	回答者数	回答率
外国語学部	語学・言語学	287	234	81.5%
国際学部	国際	139	61	43.9%
経済学部	経済・経営・商学	197	125	63.5%
経営学部	経済・経営・商学	220	19	8.6%
工学部	工学	136	47	34.6%
不明（無回答）		-	20	-
計		979	506	51.7%

なお、本調査は日本の高等学校における情報科での学びを対象としているため、海外の高等学校を卒業した学生については調査対象外となる*6。アンケート回答者のうち、[質問 1] で「海外の高等学校を卒業した」と回答した学生は 19 名であり、これらを除いた有効回答数は 487 件であった。本稿では以降、特記なき場合は有効回答数 487 件を母数として回答割合等を算出している。

また、調査対象者である 2025 年度入学生は、いわゆる現役生（2025 年 3 月卒業生）と浪人生が混在している。アンケート調査において高校卒業時期を質問したところ、「2025 年 3 月」との回答が 460 件（94.5%）、それより前に卒業した回答が 20 件（4.1%）、無回答 7 件（1.4%）であった。

3. 調査の結果

3.1 本稿における分析対象

アンケート調査項目は多岐にわたっており、そのすべてを詳細に検討するにはより多くの時間と労力を要する。本稿は速報として、大学入学共通テストの受験状況（質問

としたが、回答に際してメールアドレス（ログイン情報）の収集を行わない設定としたため、誰が回答したかどうかはわからないようになっている。

*5 配布されているアンケート項目の記載に従い、学部を分類に対応させている。本稿においてこの分類は使用していないが、今後の研究で他大学等の調査結果と統合して分析する際に必要となるため、ここに記載した。

*6 アンケート調査内の「[質問 1] あなたの出身高校の学校区分をお答えください。（単一回答）」で判定し、「海外の高等学校を卒業した」と回答した場合は以降の設定を省略して回答完了となるようにフォームを設定した。

7), 情報科の履修状況(質問 8~12), 学習内容ごとの理解度(質問 13~16, 18~21), 情報科全体に対する印象(質問 23)に絞って調査結果を整理・分析する。アンケート項目は CE 研ウェブサイトで配布されているが, 本稿で分析対象としたアンケート項目については抜粋・引用して本項末尾の付録に掲載している。

3.2 大学入学共通テストの受験状況

「[質問 7] 令和 7 年度大学入学共通テストの受験について, 当てはまるものを選択してください。(単一選択)」に対する回答件数は次の通りであった。

- 「情報Ⅰ」を受験した: 64 (13.1%)
- 「旧情報」を受験した: 3 (0.6%)
- 受験していない: 420 (86.2%)

本学において, 大学入学共通テストで「情報」を受験した者は約 1 割しかおらず, ほとんどの新生が受験していないことが明らかになった。

3.3 教科「情報」の履修科目と履修時期

高等学校における「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」「社会と情報」「情報の科学」の履修経験について, 質問 8~12 に対する回答結果をまとめたものを表 2 に示す。

なお, 履修時期は複数回答であり, たとえば 1・2 年次で履修した場合は 1 年次と 2 年次の双方を回答しているため, 割合の合計は 100%を超える。「履修したが, 受けた時期を覚えていない」「履修したかどうか覚えていない」の回答は合わせて「不明」とした。紙幅の都合上, 「履修していない」の回答は「履修無」と表記した。

表 2 教科「情報」の履修科目と履修時期

科目	1 年次	2 年次	3 年次	不明	履修無
情報Ⅰ	310 (63.7%)	73 (15.0%)	60 (12.3%)	63 (12.9%)	39 (8.0%)
情報Ⅱ	5 (1.0%)	19 (3.9%)	26 (5.3%)	106 (21.8%)	337 (69.2%)
社会と 情報	9 (1.8%)	4 (0.8%)	3 (0.6%)	99 (20.3%)	380 (78.0%)
情報の 科学	7 (1.4%)	2 (0.4%)	3 (0.6%)	76 (15.6%)	406 (83.4%)

「情報Ⅰ」については, 6 割以上の回答者が 1 年次に履修したと回答した。「情報Ⅱ」については, 7 割近い回答者が履修しておらず, 開講している高等学校が少ないことを示唆している。

いずれの科目についても, 「履修したが, 受けた時期を覚えていない」「履修したかどうか覚えていない」との回答(表中では「不明」)が 1~2 割程度あった。これらの回答の真意は不明であるものの, 情報科の学びについて科目名が

意識されていない状況が推察される。なお, 記載した 4 科目以外の履修経験についても自由記述で回答してもらったが*7, 「わからない」「科目名を覚えていない」といった回答が散見され, 同様の状況を反映している可能性がある。

3.4 学習内容ごとの理解度

情報科で学ぶ学習内容ごとに, 十分理解しているかを質問した(質問 13~16, 18~21)。学習内容は学習指導要領における「内容」を参考に, 「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとデジタル表現」「アルゴリズムとプログラミング」「モデル化とシミュレーション」「情報通信ネットワーク」「情報システムとデータの管理」「データの活用」の 8 つに整理し, それぞれ「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」の 4 件法で尋ねた。回答結果を図 1 に示す。

学習内容の理解度については, 理解している回答者と理解していない回答者がおおむね半々といったところであるが, 「アルゴリズムとプログラミング」「モデル化とシミュレーション」や「情報システムとデータの管理」「データの活用」に関してはネガティブな回答が 6 割を超えており, 十分な理解に至っていない回答者が多いことが示された。逆に, ポジティブな回答が最も多かった「情報社会の問題解決」についても, 4 割を超える回答者がネガティブな回答をしており, 情報科の学習内容は回答者にとって全体的に理解が困難なものであったことがうかがえる。

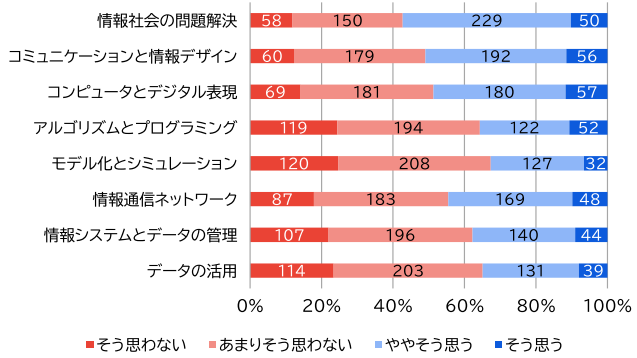


図 1 学習内容を十分理解しているか(回答者全員)

この回答結果のうち, 大学入学共通テストにおいて「情報Ⅰ」を受験した者の回答($n = 64$)を抽出したものを図 2 に示す。回答者全員のグラフとほぼ同じ形だが, 「モデル化とシミュレーション」や「データの活用」については, ネガティブな回答が多くなっているように感じられる。

学習内容ごとの理解度について, 大学入学共通テスト「情報Ⅰ」受験の有無でグループ分けし, 独立したサンプルの t 検定を行った結果を表 3 に示す。検定に際しては,

*7 専門教科情報科の科目や学校設定科目等の回答を期待して設置した設問である。

「そう思わない」を1,「あまりそう思わない」を2,「ややそう思う」を3,「そう思う」を4のスコアにそれぞれ換算して用いた。検定の結果,「データの活用」については5%水準で有意差が認められたが,他の内容については有意差が認められなかった。

なお,この分析はサンプルサイズが不均衡であるため,参考として効果量(Cohen's *d*)も算出している。効果量はいずれも小さく,有意差が認められた場合であっても実質的な違いは大きくない可能性があるため,このデータを使った分析は慎重になる必要がある。

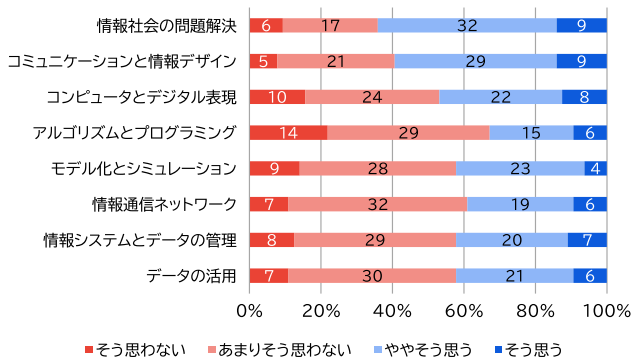


図 2 学習内容を十分理解しているか (共通テスト「情報Ⅰ」受験者)

3.5 情報科を履修した感想

情報科を履修した総合的な感想として,授業内容の楽しさ,興味,内容理解,難易度についてそれぞれ4件法で質問した(質問23)。回答結果を図3に示す。いずれの項目についても,ポジティブな回答が半数以上を占めており,「授業内容は楽しかった」「授業内容の難易度は適切だった」についてはおよそ7割の回答者が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

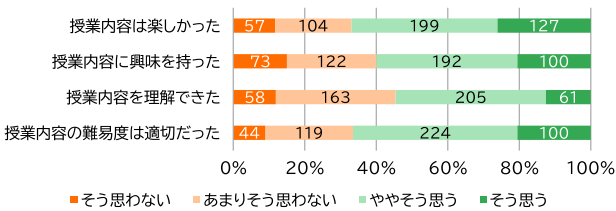


図 3 情報科を履修した感想 (回答者全員)

この回答結果のうち,大学入学共通テストにおいて「情報Ⅰ」を受験した者の回答($n = 64$)を抽出したものを図4に示す。こちらについても,回答者全員のデータと似通った傾向が見て取れる。

情報科を履修した感想について,大学入学共通テスト「情報Ⅰ」受験の有無でグループ分けし,独立したサンプルの t 検定を行った結果を表4に示す。この検定に際して

も,「そう思わない」を1,「あまりそう思わない」を2,「ややそう思う」を3,「そう思う」を4のスコアにそれぞれ換算して用いた。検定の結果,いずれにおいても有意差が認められなかった。また,効果量(Cohen's *d*)も算出したがいずれも小さく,このデータを使った分析は慎重になる必要がある。

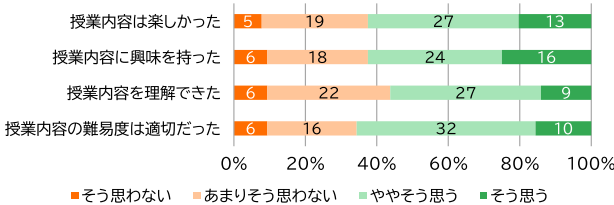


図 4 情報科を履修した感想 (共通テスト「情報Ⅰ」受験者)

4. 考察

4.1 情報科や情報入試に対する意識・実態

アンケート調査の結果から,本学 2025 年度新入生は,高等学校における情報科教育や情報入試について積極的に受け止めていなかった傾向が示唆された。

教科の履修状況を問う質問8~12に対して,履修時期を覚えていなかったり,科目名を覚えていなかったりする回答者が1~2割程度存在した。回答者の6割以上が情報科を1年次に履修しているため,すでに遠い過去のことになっているのかもしれないが,情報科の存在が他教科と比較して薄かった可能性もある。

また,本学新入生の傾向として,大学入学共通テストで「情報Ⅰ」を受験した者が少ないことが挙げられる。大学入試センターの発表[7]によると,令和7年度大学入学共通テストでは,受験者数462,066人に対して「情報Ⅰ」受験者数は279,718人であった。全国的には6割以上の受験生が「情報Ⅰ」を受験していることを考えると,本学新入生の受験率13.1%は非常に低い。

全国と本学の差が何に起因するかは明確に確認できていないものの,原因のひとつとして「年内入試」の比重の高さが考えられる。近年の本学新入生は,その多くが「年内入試」で合格した者である。年内に進学先を確定した受験生であっても共通テストを受験することはあるが,本学新入生は共通テストそのものを受験しなかったか,あるいは受験したとしても「情報」を受けることなく帰宅^{*8}した可能性がある。本学の「共通テスト利用入試」では教科の選択肢のひとつとして「情報」の点数も活用できるため,この入試で受験する場合は共通テストの「情報Ⅰ」を受験する動機づけになるはずだが,同形式の入試を受験した場合

^{*8} 2日間にわたる共通テストにおいて,「情報」の試験は2日目の最終コマであった。推測の域を出ないが,2日間の受験で疲弊した受験生が,自身の入試に直結しないのであれば最終コマの受験を忌避することも十分に考えられる。

表 3 学習内容の理解度における t 検定（共通テスト「情報Ⅰ」受験の有無）

	受験なし (n = 423)		受験あり (n = 64)		p 値	効果量 (Cohen's d)
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
情報社会の問題解決	2.54	.83	2.69	.83	.177	.181
コミュニケーションと情報デザイン	2.48	.86	2.66	.82	.118	.211
コンピュータとデジタル表現	2.47	.87	2.44	.91	.810	.034
アルゴリズムとプログラミング	2.22	.94	2.20	.89	.879	.021
モデル化とシミュレーション	2.12	.87	2.34	.80	.050	.255
情報通信ネットワーク	2.36	.90	2.38	.81	.927	.023
情報システムとデータの管理	2.22	.91	2.41	.85	.132	.211
データの活用	2.16	.89	2.41	.81	.041*	.284

(* $p < .05$)

表 4 情報科を履修した感想における t 検定（共通テスト「情報Ⅰ」受験の有無）

	受験なし (n = 423)		受験あり (n = 64)		p 値	効果量 (Cohen's d)
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
授業内容は楽しかった	2.82	.97	2.75	.87	.570	.073
授業内容に興味を持った	2.64	.97	2.78	.93	.264	.145
授業内容を理解できた	2.54	.86	2.61	.85	.569	.082
授業内容の難易度は適切だった	2.79	.88	2.72	.84	.546	.080

であっても、「情報」ではなく他教科の点数で挑戦した学生が多いことが推察される。

情報入試に対する意識については、新入生が受験した入試方式や共通テストの受験有無、あるいは同様の入試方式を採用している他大学との比較等が必要になる。本稿執筆時点ではいずれのデータも入手できていないため、今後さらなる検討が必要であろう。

現段階では検討が不十分な点が残されているものの、こうした状況を踏まえると、本学 2025 年度新入生にとって、情報科が受験教科であるという意識は希薄であったと考えられる。

4.2 情報科の学習内容理解

情報科の学習内容理解については、分野による差が見られた。「情報社会の問題解決」や「コミュニケーションと情報デザイン」等については、半数以上の回答者が「学修内容を十分理解しているか」との質問に対して「そう思う」または「ややそう思う」と回答している。一方で、「モデル化とシミュレーション」や「データの活用」等については逆に、6 割を超える回答者が「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答しており、主観的なレベルにおいて理解度のバランスが取れていないことが明らかになった。

Studyplus トレンド研究所が 2024 年 11 月に実施した調査 [14] においても、「情報Ⅰ」の授業の中で難しいと感じる学びの内容として「プログラミング」「アルゴリズムの理解」「データ分析の手法」が上位にあがっていることから、こうしたバランスの悪さは本学に特有の傾向ではなく、全国的な傾向であると考えられる。このことについては今後の研究において、複数大学の調査結果を横断的に検討する

ことで考察したい。

なお、アンケート調査では大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」受験の有無と関連づけて分析したが、本学新入生の場合、「情報Ⅰ」の受験の有無と、情報科の学習内容理解には関連が見出せなかった。前述の通り、受験者が少ないためにサンプルサイズが不均衡になっており、慎重に分析する必要があるものの、少なくとも今回の調査結果に限れば、情報入試が高等学校での情報教育に与える影響は大きくないことが推察できる。

4.3 情報科の履修に対する印象

学習内容理解という点では困難さが否めない情報科教育であるが、その反面、教科の履修に対する印象はおおむね肯定的であった。

情報科の授業内容について「楽しかった」「興味を持った」「理解できた」「難易度は適切だった」のいずれに対しても半数以上がポジティブな回答をしている。「難易度は適切だった」と考える回答者が多い一方で、前項で触れたとおり、学習内容理解はそこまでポジティブな回答は得られておらず、一見すると矛盾しているようにも見える。あくまで推察の域を出ないが、本学新入生にとって情報科の学びは、難しいとは感じられないが理解するほどの定着には至っていないという状態であろう。すなわち、学び自体に困難は感じていないものの、理解を深めるレベルの学びには到達していない、あるいはそもそも理解しようと思っていない可能性がある。

情報科の学びを楽しみ、興味深いと感じている状態でありながら学びを深められていない原因は、今回の調査からは明らかにすることはできない。しかし、学びに向かうポ

テンシアルは持っているため、適切な働きかけを行うことで、情報科の学びにより深く向き合う可能性はあるだろう。具体的な方策等については本稿の範疇を超えるためここでは議論しないが、働きかけ次第では、情報教育に対する意識が変容することも期待される。

4.4 情報入試の影響

情報科の学習内容理解や、履修に対する印象を問うアンケート項目については、大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」受験の有無で結果に差があるかどうか検討した。検討の結果、本調査においては、「情報Ⅰ」受験の有無が、内容理解や印象等に影響を与えていないことが見出された。

ただし、この結果から直ちに「情報入試は影響力がない」と結論づけることはできない。本学新生はその多くが大学入学テストの「情報Ⅰ」を受験しておらず、全国的傾向とは異なる状態にある。そのため、本稿で実施した統計的な検討がどこまで意味のある結果を導いているのか、本来であれば他の条件等を加味しながら複合的に検討しなければならない。

今回の結果から主張できることとしては、「情報入試が導入されても、導入直後の段階においては明確な影響力を確認するのは困難である」ということではないだろうか。これは影響力の有無を主張しているのではなく、影響力があったとしても確認できる状態に至っていないという意味である。より明確で意味のある結論に到達するためには、多数の大学による調査結果の横断的検討や、来年度以降の継続的な調査の実施が必要であろう。

5. おわりに

本研究では、情報処理学会コンピュータと教育研究会が作成した「高等学校情報科での学びに関する調査アンケート実施項目」に基づき、麗澤大学 2025 年度新生を対象としたアンケート調査を行った。調査結果を分析・考察することで、いくつか傾向が見出された。

本学新生は全国的傾向とは異なり、大学入学共通テストで「情報」を受験した者は少なく（13.1%）、情報入試の影響は見出せなかった。このことは「年内入試」で定員の多くを確保する私立大学の入試戦略が影響している可能性があるが、現段階で具体的な関連は不明である。

また、情報科の履修科目・時期を問う質問では、わからない・覚えていないという回答が一定数あり、多くの回答者にとって、情報科の存在が他教科と比較して薄かった可能性がある。学習内容の理解についてはおおむね半数程度の回答者が理解している傾向が見られたが、分野による差も明らかになった。一方で、情報科の履修に対する印象としてはおおむね好意的であり、今後はこのポテンシャルを元に、情報科の深い学びにいかに関導していくかを検討する

必要がある。

本調査は、筆者の本務校である麗澤大学の 2025 年度新生のみを対象とした。当然ながら、本調査結果は大学の特性等のバイアスを受けており、本稿における考察を直ちに一般化することはできない。本調査の元となったアンケート調査項目は公開されており、すでに複数の大学で実施されている^{*9}。今後は様々な大学等で実施された調査結果を統合して横断的に分析し、現行学習指導要領における学習者が、情報科でどのような学びを行い、何を得たのかについて一般的な傾向を見出したり、あるいは特徴ごとに分類したりしていくことが求められる。また、2025 年度新生だけでなく、次年度以降も同様の調査を継続的に実施し、経年変化も調査する必要がある。今後は本学でのより詳細な調査を実施するとともに、同様の調査を実施している大学等と連携し、調査ならびに研究を発展させていく予定である。

謝辞 調査にご協力いただきました、麗澤大学「情報リテラシー A」担当教員ならびに受講生のみなさまに感謝いたします。本研究の調査は、情報処理学会 コンピュータと教育研究会が作成したアンケート項目を使用して実施しました。<https://ce.eplang.jp/index.php?InformaticsSurvey>

本研究は、JSPS 科研費 JP21K02864 ならびに 25K06475 の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 文部科学省：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），東山書房（2018 [出版 2019]）。
- [2] 大学入試センター：平成 30 年告示高等学校学習指導要領に対応した令和 7 年度大学入学共通テストからの出題教科・科目について，独立行政法人大学入試センター（オンライン），入手先〈<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=510&f=abm00000301.pdf>〉（参照 2025-05-20）。
- [3] リベルタス・コンサルティング：大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究 調査報告書，令和 4 年度文部科学省委託調査（2023）。
- [4] 松井 亨：多様化する大学入試：筑波大学での事例，化学と教育，Vol. 65, No. 7, pp. 326-329（2017）。
- [5] 文部科学省：令和 6 年度国私立大学入学者選抜実施状況，文部科学省（オンライン），入手先〈https://www.mext.go.jp/content/20241120-mxt_daigakuc02-000038880_1.pdf〉（参照 2025-05-20）。
- [6] 後藤健夫：大学入試は「年内合格続々」，東洋大が広げた波紋，東洋経済オンライン（オンライン），入手先〈<https://toyokeizai.net/articles/-/839430>〉（参照 2025-05-20）。
- [7] 大学入試センター：令和 7 年度大学入学共通テスト実施結果の概要，独立行政法人大学入試センター（オンライン），入手先〈<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=487&f=abm00005261.pdf>〉（参照 2025-05-20）。

^{*9} 本稿に基づく発表を行う，情報処理学会 コンピュータと教育研究会 第 180 回研究発表会においても，同じアンケート調査項目を活用した調査結果が複数発表される予定である。

- [8] 国立大学協会：2024 年度以降の国立大学の入学者選抜制度：国立大学協会の基本方針，一般社団法人国立大学協会（オンライン），入手先 https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2022/01/20210128_news_001.pdf（参照 2025-05-20）。
- [9] キミのミライ発見：情報入試（2025 年春 教科「情報」による一般入試を実施する大学），河合塾（オンライン），入手先 <https://www.wakuwaku-catch.net/nyushi/>（参照 2025-05-20）。
- [10] 情報処理学会：大学入学共通テストで「情報」を必須としつつ配点しない入試に対する本会の見解，一般社団法人情報処理学会（オンライン），入手先 https://www.ipsj.or.jp/release/20221012_opinion.html（参照 2025-05-20）。
- [11] 麗澤大学：麗澤大学年報 2023，麗澤大学（2024）。
- [12] 中園長新：ICT 活用と情報教育に対する大学新入生の意識と実態，大学 ICT 推進協議会 2024 年度年次大会論文集，pp. 63–70（2024）。
- [13] 情報処理学会コンピュータと教育研究会：高等学校情報科での学びに関する調査アンケート実施項目の提供について，情報処理学会 コンピュータと教育研究会（オンライン），入手先 <https://ce.eplang.jp/index.php?InformaticsSurvey>（参照 2025-05-20）。
- [14] Studyplus トренд研究所：【高校生 1,673 名対象】共通テスト新科目「情報Ⅰ」の授業・入試活用実態を調査～高 3 生の 78.8%が今年の入試で利用予定も、学校の授業は高校生の 7 割が「難しい」6 割が「楽しくない」～，Studyplus トренд研究所（オンライン），入手先 <https://www.trend-lab.studyplus.jp/post/20241212>（参照 2025-05-20）。

付 録

A.1 本稿で分析対象としたアンケート項目

本研究で実施したアンケート調査項目のうち，本稿で分析対象とした項目は次の通りである。ただし，いわゆるフェイスシートに該当する項目は省略した。

これらの項目は，情報処理学会 コンピュータと教育研究会が作成した「高等学校情報科での学びに関する調査アンケート実施項目」[13] から抜粋・引用したものである。

[質問 7]

令和 7 年度大学入学共通テストの受験について，当てはまるものを選択してください。（単一選択）

- 1 = 「情報Ⅰ」を受験した
- 2 = 「旧情報」を受験した
- 3 = 受験していない

[質問 8]

高等学校で科目「情報Ⅰ」を履修したことがありますか。履修したことがある方は受けた時期について，当てはまるものすべてを選択してください。（複数回答）

- 1 = 1 年次

- 2 = 2 年次
- 3 = 3 年次
- 4 = それ以外の時期
- 5 = 履修したが，受けた時期を覚えていない
- 6 = 履修したかどうか覚えていない
- 7 = 履修していない

[質問 9]

高等学校で科目「情報Ⅱ」を履修したことがありますか。履修したことがある方は受けた時期について，当てはまるものすべてを選択してください。（複数回答）

- 1 = 1 年次
- 2 = 2 年次
- 3 = 3 年次
- 4 = それ以外の時期
- 5 = 履修したが，受けた時期を覚えていない
- 6 = 履修したかどうか覚えていない
- 7 = 履修していない

[質問 10]

高等学校で科目「社会と情報」を履修したことがありますか。履修したことがある方は受けた時期について，当てはまるものすべてを選択してください。（複数回答）

- 1 = 1 年次
- 2 = 2 年次
- 3 = 3 年次
- 4 = それ以外の時期
- 5 = 履修したが，受けた時期を覚えていない
- 6 = 履修したかどうか覚えていない
- 7 = 履修していない

[質問 11]

高等学校で科目「情報の科学」を履修したことがありますか。履修したことがある方は受けた時期について，当てはまるものすべてを選択してください。（複数回答）

- 1 = 1 年次
- 2 = 2 年次
- 3 = 3 年次
- 4 = それ以外の時期
- 5 = 履修したが，受けた時期を覚えていない
- 6 = 履修したかどうか覚えていない
- 7 = 履修していない

[質問 12]

質問 8～11 でお尋ねした科目以外で，「情報」に関する授業を受けた方は科目名を教えてください（例：「情報産業と社会」，「工業情報数理」，「情報処理」な

ど)。複数ある場合は空白（スペース）で区切ってすべて記入してください。科目名を覚えていない方は「科目名を覚えていない」、授業を受けたかどうかがわからない場合は、「わからない」と回答してください。（自由記述）

ここからは、教科「情報」の学びについてお伺いします。質問 13～21 でお尋ねする教科「情報」のそれぞれの学習項目について、アンケート回答時点での自分が思う理解度を 4 段階で回答してください。（単一選択）

[質問 13]

教科「情報」で学んだ「情報社会の問題解決」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 14]

教科「情報」で学んだ「コミュニケーションと情報デザイン」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 15]

教科「情報」で学んだ「コンピュータとデジタル表現」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 16]

教科「情報」で学んだ「アルゴリズムとプログラミング」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 18]

教科「情報」で学んだ「モデル化とシミュレーション」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う

- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 19]

教科「情報」で学んだ「情報通信ネットワーク」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 20]

教科「情報」で学んだ「情報システムとデータの管理」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 21]

教科「情報」で学んだ「データの活用」に関する学習内容を十分理解している。

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

[質問 23]

次の A～D について、教科「情報」を受けた総合的な感想について、それぞれ当てはまるものを選択してください。（単一回答）

A. 授業内容は楽しかった

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

B. 授業内容に興味を持った

- 4 = そう思う
- 3 = ややそう思う
- 2 = あまりそう思わない
- 1 = そう思わない

C. 授業内容を理解できた

4 = そう思う
3 = ややそう思う
2 = あまりそう思わない
1 = そう思わない

D. 授業内容の難易度は適切だった

4 = そう思う
3 = ややそう思う
2 = あまりそう思わない
1 = そう思わない